

とを強く願い、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原洋子議員の一般質問が終わりました。

ここで説明員入替えのため、暫時休憩いたします。

〈午後1時07分 休憩〉

〈午後1時09分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、横山人美議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。〔3番 横山人美君登壇〕

○3番（横山人美君）

みらい創造クラブの横山人美でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、脱炭素社会における、住みよいまちづくりのための、環境と健康に優しい住宅施策への取組について。

令和4年度新潟県当初予算の概要の中で、県は、ポスト・コロナ社会における本県の中長期的な成長・発展に向けた取組の一つとして、脱炭素社会への転換を挙げ、「新潟県2050年カーボンゼロの実現に向けた戦略」を踏まえ、官民一体となり各部門において具体的な取組を着実に進め、先行して脱炭素に取り組む地域を支援するとともに、その効果やノウハウをほかの地域へ波及させ、県全体の脱炭素を促進するとしています。

そのための新たな事業の一つとして、住宅の省エネ対策を挙げ、「雪国型ZEH（ゼロ・エネルギー・ハウス）」を供給側から普及するため、県内中小工務店向けの講習会の開催や啓発ツールを作成するとして「新潟県版雪国型ZEH普及促進事業」が予算化されています。

この背景には、戦略の中間取りまとめによる、2030年に2013年度比46%温室効果ガス排出量削減に向け、家庭部門では2013年度比約50%のCO<sub>2</sub>削減の必要性があり、この必要性については、新潟県の世帯当たりの年間CO<sub>2</sub>の排出量（中でも、冷暖房に伴うCO<sub>2</sub>排出の割合）が全国平均より高いこと、また、一戸建て住宅の割合が74%と全国7番目、住宅の延べ床面積の大きさも全国第5位と、家庭部門において多くのエネルギーが使われることを挙げています。

糸魚川市では、将来像として「環境を学び、考え、行動する人が育つまち、いといがわ」を掲げ、第2次糸魚川市環境基本計画において、「糸魚川市地球温暖化対策実行計画」を策定し、基本目標と取組の方針を定め、住宅やそれに関わる施策を示しています。また、各課において、定住や空き家対策、地場産材の活用、立地適正化計画等、住環境の整備に関する施策も示されています。

近年、人間の活動によって、大量の温室効果ガスが大気中に放出され、地球の気温が上昇し、自

自然界のバランスが崩れているのは周知の事実です。地球環境が悪化し、私たちの生活や健康に大きな被害をもたらされる前に、一人一人の認識と自治体レベルでのさらなる啓発と取組が必要だと考えます。

本年度の県の方針である住宅の省エネ対策を受けて、市民にとって一番身近で、欠かせない住宅施策における、糸魚川市の脱炭素に関する現状と今後の方向性についてお伺いいたします。

- (1) 糸魚川市内のCO<sub>2</sub>削減の現状と、それに関わる主な取組をお聞かせください。
- (2) 脱炭素社会を目指すためのさらなる取組、また、住宅部門での取組で計画されているものがございましたらお聞かせください。
- (3) 糸魚川市は糸魚川産業創造プラットフォームの「緑でつなぐ未来創造会議（通称3M）」の一員として、地場産材の活用や商品化、教育への活用などの活動に参画していますが、その主な目的と今後の行政への反映の方向性をお聞かせください。
- (4) 各課にある住環境の整備に関する施策において、脱炭素を目指した住宅を目標とした場合、どのような体制が必要であるかお聞かせください。

2、「ひとみかがやく日本一の子どもをはぐくむ」ための、教育的見地からの保育園、幼稚園の統合・民営化の推進の必要性について。

今年3月の定例会において、「ひとみかがやく日本一の子どもをはぐくむ」ための、保育園、幼稚園職員の人材育成と働き方改革の推進並びに教育的見地からの保育園、幼稚園の統合・民営化の推進の必要性について質問いたしました。その中の、統合・民営化の質問につきまして、市長より、民営化については再度検討、教育長より、保育ニーズへの対応や効率的な保育運営の観点から、適正配置、民営化についても検討していくと答弁がございました。

その後の進捗についてお伺いいたします。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

横山議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、当市のCO<sub>2</sub>排出量は減少傾向にあり、太陽光パネル等への助成や啓発に取り組んでおります。

2点目につきましては、ゼロエネルギーハウスや省エネ住宅の周知を行ってまいります。

3点目につきましては、森林資源を活用した経済循環の仕組みづくりによる地域の活性化を目的としており、市の施策と方向性が同様であることから、引き続き連携・支援をしてまいります。

4点目につきましては、各課横断的な体制を取るよう進めてまいります。

2番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願ひいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願ひいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

横山議員のご質問にお答えいたします。

2番目につきましては、現在、財源比較や人口推移の現状把握と課題整理を行っているところでありまして、適正配置や民営化方針案について、検討を進めている最中でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

では、2回目の質問に移りたいと思います。

CO<sub>2</sub>の削減の現状は、減少傾向と理解いたしました。では、2030年に46%削減、さらに2050年、実質ゼロに向けて、糸魚川市の現時点での削減の見通しは、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

CO<sub>2</sub>の排出量につきましては、環境省のほうで自治体排出量カルテというものを公表しております。こちらによりますと、糸魚川市においては、当市におきましては、2014年度から2019年度までが直近になりますが、こちらのほうまでが減少傾向にあるということでございます。

また、2018年の排出量の減少率につきましても、前年、2018年に比べますと1年間で約5%の減になっているということでもあります。単純な減少率で掛けると、2030年度には約48%減になるかと。また、2050年度には81%というふうな推計になります。

ただ、毎年5%を削減し続けることというのは、非常に厳しい、ある程度大きな挑戦であるというふうに認識しております。したがって、今後、市民一体となった脱炭素、CO<sub>2</sub>削減に向けて、しっかりと取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

5%を毎年削減していくというのは、大きな挑戦ということですが、では、削減を着実に進めるために、今後の取組としてどのような事業を推進してまいりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

削減につきましては、再生可能エネルギーの導入が、まずもって欠かせないというふうに考えております。したがって、現在も太陽光パネルやペレットストーブ等の助成を行っております。これを引き続き行いながら、併せて省エネにつきましても、しっかりと市民の皆様呼びかけをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

今年の2月に示された第2次糸魚川市環境計画の進捗報告書には、各環境指標の数値目標に対し、着実な報告がなされておりました。その中の今おっしゃった市民の再生可能エネルギーの設備において、住宅での太陽光発電設備やペレットストーブ設備導入における課題がございましたら、お知らせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

太陽光、またペレットの助成件数につきましては、現在は年数件というペースでとどまっているというような状況であります。

太陽光発電につきましては、固定買取価格制度の単価が、毎年毎年下がっているという状況の中で、設置者の方々のインセンティブがなかなか低くなってしまったことが一つ挙げられると思っております。また、ペレットストーブ、こちらにつきましては、そもそものものが高いというところがありまして、やはりその導入費用が課題であるというように考えております。

今後は、環境負担軽減を図る行動につながる点もしっかりと市民の皆さんに伝えながら、こういったものの導入促進もさらに図っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

太陽光発電の買取単価が下がっているということと、ペレットストーブの高い費用ということをお話しいただきましたが、今住宅における再生可能エネルギーの設備導入では、やはり太陽光、天候に左右される供給量とか、あとコスト、また小さなお子さんがいるご家庭での安全性などの課題も多いかと思っております。

前段でお伝えいたしましたとおり、県は新たな事業として、住宅の省エネ対策を上げています。今ほどご答弁をいただいたことを踏まえて、これからは再生可能エネルギーの普及に加えて、省エネ対策を、市長答弁にもありましたけども、推進ということと、また、省エネ対策へ転換していく時期なのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

今ほどご提案もありました。省エネの取組につきましては、先ほど申し上げましたとおり、やはりこれはもうやっつけていかなければいけないということでもあります。そちらの転換という、かじを切るというところでございますが、現在そこにつきましては、やはりこれまでの取組と並行して、併せて、しっかりと取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

しばらくは、並行して取り組んでいくということで理解いたしました。

では、糸魚川市で市民に周知しているクールチョイスについての事業内容を詳しくお伝えいただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

クールチョイスというものは、環境省が呼びかけている脱炭素社会の取組の一つでございます。製品への買い替え、サービスの利用、ライフスタイルの選択など、日々の生活の中で賢い選択をしていこうという取組でございます。例えるなら、家電を買い替えるときには、CO<sub>2</sub>の排出の少ない家電を選ぶなど、そういった脱炭素の取組を意識してということでの取組というふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

では、クールチョイスの取組や省エネ行動の実践のほかにも、環境基本計画の中には住宅や事業所におけるZEH（ゼロ・エネルギー・ハウス）でありますとか、あとZEB（ゼロ・エネルギー・ビルディング）の普及促進、さらには持続可能な森づくりを目指した糸魚川市森林整備計画に基づいた植林や間伐などの計画的な森林整備、それに伴う住宅の建築時の地場産材の利用促進や散策路などの整備に間伐材を利活用などの施策を上げています。これらの進捗については、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

猪又環境生活課長。〔環境生活課長 猪又悦朗君登壇〕

○環境生活課長（猪又悦朗君）

それでは、私のほうからはZEH、ZEBの取組についてでございますが、こちらのほうにつきましては、まだまだ周知は足りていないというところでございます。家を建てるときには、そうい

う Z E H という建て方、品物が一つの選択肢となるような形でしっかりと周知していきたいというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

住宅建築時の地場産材の利用につきましては、当課で所管しております、ふるさとの木の家づくり事業によりまして、利用の促進を図っております、令和 3 年度の地場産材の使用量は、前年度と比較しまして若干増加しているような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3 番（横山人美君）

Z E H、Z E B に関しては、これから周知していかれるということで、あと地場産材の利用ということは、少し伸びているというふうに理解いたしました。

市内 8 7 % を占める森林面積において、杉人工林の七、八割が、間伐や主伐などの伐期を迎えているにもかかわらず、全体として年間 6 0 から 8 0 % の間伐実績にとどまっています。糸魚川市でも、今ほどご答弁いただいた住宅の補助の施策のほかにも、ジオステーション、トワイライトエクспレスのレプリカの車体や、あと東京オリンピック・パラリンピック競技大会の組織委員会が実施した「日本の木材活用リレー～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」に糸魚川産の杉や木材を提供するなどの利用の工夫はされていますが、地元での材木としての利用がなかなか進まないために、残念ながら品質が良い杉が育ちにくい現状があるのではないかと懸念いたします。間伐・主伐が進まない課題を何と捉えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えします。

間伐・主伐が進まない理由としまして、一番大きいと考えられますのが、やはり木材の販売価格に対しまして、伐採、それから搬出にかかる経費というのが、それを上回るというようなことで、多額の持ち出しが発生するという点が上げられるかと思えます。このため、全国的な状況としまして、国の支援があります間伐を中心とした施業に偏っているような状況でございまして、当市においても同じような状況というふうになっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

材木として、木材として販売されるよりも、持ち出し、山から出してくるのにお金がかかるということで、理解いたしました。

杉の香りには、血圧や脈拍の乱れを低下させ、自律神経を安定させるリラックス効果があるとされています。また、抑鬱状態や発達障害の児童を落ち着かせる効果についても研究が進んでおります。そう考えると、市民の心身の健康面においても糸魚川の森林は、まさに宝の山というふうに置き換えても言えるのではないのでしょうか。担当課と糸魚川地域振興局、それから森林組合などとの連携も必要になってきますが、この宝の山を未来に残すためにも、今ほどお話しいただいた課題と真剣に向き合い、ここは市全体の課題として森林の利活用に大きな一歩を期待いたしたいものですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えします。

議員おっしゃいますように森林の利用を進めるには、やはり木材の利用の拡大、消費の拡大といったところが必須事項であるかと思えます。車に例えますと、車の両輪というような関係性かと思えます。そういった意味で、3Mが進めている重ね張りの商品開発といたしますが、今まで利用できなかった住宅の構造材として使っていこうという新たなチャレンジでありますので、地場産材の利用拡大に向けて、川下だけでなく、川中、それから川上、業界全体に仕事を生み出し、3Mが目指す森林資源を活用した経済循環といったところにつながっていくものだというふうに考えております。

また、林業の担当課としましては、今回の糸魚川版住宅基準、そこにおきましても地場産材の使用割合というのをもう少し増やしていただきたいなという思いは正直あるんですけども、1つのこれも通過点というふうに捉えまして、今後も連携してやっていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

今ほど農林水産課長からも3Mというお話が、3Mとの連携というお話がありましたが、県内では、新潟市が令和2年12月に新潟市クールチョイス推進チームを結成しまして、各関係事業者のほか、工業高校の先生や生徒さんまでも推進チームのメンバーになって、家庭部門での地球温暖化対策を進めるために高断熱住宅の体験、それから断熱DIYワークショップ、そしてセミナー、相談会、ラベル認証制度の4つのアイデアについて具体的な実現方法を公民連携で取り組んでおります。環境計画の中にある施策を国や県の動きに合わせて、脱炭素を目指したまちづくりを糸魚川市において先進的に進めていく方法の一つとして、今ほど課長さんからもお話ありました次の(3)

の質問にもつながりますが、糸魚川産業創造プラットフォーム、緑でつなぐ未来創造会議、通称3Mへの今までより積極的な行政の参画を提案いたしたいものでございます。

その3Mについて、目的については、先ほど市長答弁で理解いたしました。私は、自身の家庭環境として、材木が身近の中で育ったこともあり、3Mの取組に大変興味を持ち、昨年の夏から月1回の会議に毎回、仲間の議員と共にオブザーバー参加をさせていただいてきました。会議の中では3Mのメンバーが、教育レジャーユニットと商品ブランディングユニットに分かれて話し合いがなされ、積極的な事業計画と展開が進んでおります。行政からも関係各課の職員が、毎回出席され、会議や取組に参加されていますが、その内容は、今まで庁内でどのように共有・評価されてまいりましたでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えします。

3Mの会議には、市役所の職員も毎回数名参加させていただいております。そういった中で、会議録として残しまして、各関係課のほうに回覧させていただきながら情報共有を図り、それぞれの課で自分たちが所管する事業について検討していただいているというふうに受け止めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

庁内でもしっかりと共有されているということで、理解いたしました。

今月6日に産業創造プラットフォームの委員長と、それから未来創造会議、3Mの座長が、来庁され、9日の新聞報道にもありましたとおり、糸魚川住宅基準一種として、地元産木材の活用と住宅の高性能化、断熱性能強化、構造計算をセットにした住宅の基準づくりの説明をされました。記事によりますと、市長もこの取組に前向きな姿勢を示され、私も市内の住宅における省エネ、そして、国・県の動きに先駆けた取組が展開されるものと大変期待し、うれしく思っております。このような公民連携の方向性が示された中で、この公民連携を進める上で、今後さらにどのような庁内体制が必要だとお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今までこの地域課題として、やはり森林の占める大きな割合の我々糸魚川市の特徴を生かし切らなかった。そして今、課題となっております環境問題、いろいろな課題解決に、個々には取り組んでいるんですが、一体感がなかなか見えてなかった。そして、この課題を解決するには、やはり今

3Mといいたいでしょうか、緑でつなぐ未来創造会議の皆様方が提案してくれた形というのは、非常に基本的には理にかなっていると理解させていただきました。そのことから、ぜひとも私は、この特徴をしっかりと生かしていきたいし、そして、糸魚川版のZEBといいたいでしょうか、意思をしっかりと明確にすることによって、差別化ができて、糸魚川の特産といいたいでしょうか、糸魚川の特徴として出していけるのではないかなと思っております。

ただ、やはり価格的に見ますと、どうしても高くなっていく可能性があるなとは思いますが、しかしながら、脱炭素の中でそれを吸収していけないのか、そういったところが重要になってくると思います。そうやってまいりますと、行政としても1つの課では収まらない部分になっていくのではないかな。そうしますとやはり今、連携を取っておるんですが、もっと強い連携が必要になってくるのではないかな。プロジェクトでもいいのか、また横断的などといった組織がいいのか、それを検討しながら、この3Mの皆様と連携を強い形で表していきたいと思っております。先般の報告いただきまして、さらに強く感じた次第でございますし、そして、ほかとの差別化だったり競争するには、やはり早くこれに取りかからなくてはいけないというのを痛切に感じさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

市長、ありがとうございます。とても力強いお言葉だったとうれしく思います。

通告書に示しましたとおり、県内住宅は一戸建てが多く、そして延べ床面積も広いため、新潟県で住むためのエネルギー消費、年間一次エネルギー消費、この過半数が暖房というデータが示されております。また、住宅内で寒暖差、住宅内での寒暖差によって引き起こされる脳卒中でありますとか、心疾患による突然死の原因ともなるヒートショックや高血圧症は、住宅の断熱性能強化で防ぐことができるというデータも多く示されています。この3Mが掲げる糸魚川の杉で、糸魚川の職人により、安心安全な家を建てるという一つの制度で、地域内経済の循環、エネルギーの排出抑制、そして、社会保障費の抑制の3つの地域課題解決に貢献しようとするこのプロジェクトは、コロナ禍や現在の世界情勢において、低迷した市内経済活性化の一つとなり、脱炭素社会における住みよいまちづくりとして、また住環境整備に伴う市民の健康を守るものとして、大きな役割が期待できるものと考えております。

今ほど市長からも各課横断的などというような、チームを組んでというようなお話がありましたけれども、民間団体、それから民間事業者、行政が、適切な役割分担に基づいて、公共領域を創造し、市民サービスの質・量を図っていくという公民連携の利点をフルに生かすために、部署横断的な庁内チームを結成し、チーム力維持のためには、ある一定期間程度は、人事も凍結する覚悟でぜひとも前向き、かつ積極的な取組、事業展開につなげていただきたいと思います。

それでは、（4）の質問に移りたいと思います。

糸魚川市における住宅に関する施策の窓口なのですが、例えば空き家対策でも有効活用は企画定住課、危険空き家倒壊撤去は環境生活課、今ほどご答弁いただきました住宅環境やエネルギー設備も環境生活課、住宅に関する地元産材使用は農林水産課、公営住宅は建設課、建築等に関する各種

申請の提出や居住誘導地域まちづくりは都市政策課と複雑です。本日の質問の趣旨であります環境と健康に優しい住宅施策の展開に向けて、先ほどは3Mとの連携強化を機に、糸魚川市全体の住環境整備として大枠で捉え、こちらも各課横断的な総合住宅施策の推進する窓口をつくり、市民と向き合う体制を提案いたしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

緑でつなぐ未来創造会議の活動については、高く評価いたしております。また、横山議員ずっとおっしゃってます市の課題解決に向けた取組ということで、市の方向性と合致してるということで、強力に進めていく必要があるなというふうに思っています。公民連携の恒例でもあるというふうに思っています。このような中で、庁内の横断的な組織だとか専門的な部署ということで、ご提案なんですけども、やはり市で方向性を定めて、しっかり取り組むといったときは、市長を先頭にして、しっかりやっぱり事業に取り組む体制が必要だというふうに思っています。ともすると、縦割りといいますか組織にとらわれて、この仕事は私のところではないですか、関係ないとかそういったことがちょっとありがちななんですけども、そういったところを排除して、しっかり取り組んでいく。これはちょっと理念的な話になりますが、そういった意識で今ご提案のあった事業については取り組んでいきたいというふうに思っています。当面は、組織の横断的な体制で取り組んでまいります。専門的な組織をある程度中心的な部署を設けて取り組んでいくということも考えまして、積極的に進めてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ぜひとも積極的な取組をお願いいたしたいと思います。

昨日の報道によりますと、脱炭素社会の実現に向けて住宅の省エネ化を進めるため、2025年度以降、全ての新築の建物に断熱性能など省エネ基準を満たすことを義務づける改正内容を盛り込んだ法律が、昨日13日の参議院本会議で全会一致で可決成立しております。ぜひともよろしくお願いいたしたいと思います。

議員という立場を与えていただきまして、多くの市民と向き合う機会に恵まれ思うことは、市民の皆さん皆、糸魚川や地域のこと、そして糸魚川で暮らし続けることを本当に真剣に考えておられるということです。市民の声、そして専門家の声は、アイデアの宝庫だと感じております。ぜひとも公民で向き合うこと、庁内で横つながりを深めて、市民の思いを共有できる糸魚川市であってほしいことをお伝えいたしまして、次の質問に移りたいと思います。

大きな2番の質問です。今年の3月の定例会において、保育士の職場環境の改善の方法の一つとして、教育的見地からの民営化の推進をお伝えいたしました。その後の進捗につきましては、教育

長答弁にて理解いたしました。民営化について、引き続き検討を重ねるということですが、行政が考える現時点での民営化のメリット・デメリットについてお聞かせいただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

現在考えられます民営化によるメリット、またデメリットにつきましてお答えいたします。

初めにメリットにつきまして、保護者側にとりましては、民営化された保育園と公立の保育園が共存することによりまして、それぞれが特色あるサービスを提供でき、保護者が各園の方針に応じた園の選択の幅が広がるということ、また、行政といたしましては、市の財政負担が大きい公立から、負担が比較的小さい私立へ移行し、財政健全化による得られた費用をさらに他の子育て支援の充実に投入できるということであります。

次に、デメリットということですが、保護者側にとりましては、保育方針、保育士などの環境が変わることにより、園児または保護者の不安が生じるおそれがあるのではないかとといったことが考えられます。

公営から民営化への移行によるメリット・デメリットは、保護者側、また行政側それぞれありますが、民営化の検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

メリット・デメリットについてお伺いいたしました。ありがとうございます。私もいろいろとメリット・デメリットについては考えてまいりました。3月にお伝えいたしました先生方の働き方の改善のほかに、民間にある特色ある保育、例えば自然を生かした保育、運動に特化した保育、書道や茶道、和太鼓、音楽、スイミング、異文化交流や語学など、子供たちの可能性に幅広い角度からアプローチできるカリキュラムでございますとか、あと土日や一時預かりなどの保護者のニーズに合わせた民間保育の柔軟性に期待したいものでございます。

その反面、一方で、やはり公立保育園の持つ安定性を望む声、それから民営化に伴い家庭の経済的負担が増加するのではないかと不安材料、公立保育園で働きたいと希望された職員さんのお気持ちなど、先ほどの教育長の答弁にもございましたとおり、民営化に至るには、まだまだ多くの思いや課題は多いことは承知しております。3月の定例会以降、保育園で働く先生方やそのご家族、それから市内で園を運営されている方や関係者の方から、これからの保育園や先生としての在り方について、多くのお声を頂いております。反響を頂いております。

私も、引き続きメリット・デメリットについて、しっかりとそのお声に耳を傾け続けたいと思いますので、行政としてもやはり皆さんの声を聴き続けていただき、さらに、またその上で民営化について、ぜひ前向きな検討を重ねていただきたいと思いますと思いますが、再度、教育長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

お答えいたします。

今ほど嶋田課長が話しましたように庁内事務局でもメリット・デメリット、整理しております。それから、今ほど横山議員さんのほうからも、ご自身が考えられるメリット・デメリット、いろんな角度から情報提供いただきました。そう簡単にはいかない部分もたくさんあるんですけども、子供を真ん中に据えて、預ける保護者、それから直接担当する先生方、職員、その人たちの働く場の環境、それから子供第一の環境というのはどういう姿が一番いいのか、どういうサービスが求められるのかということを総合的に鑑みながら、計画的に逐次、また審議しながら前に向かって進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

糸魚川市の大切な子供たちのために皆さんの声を聴き続けるというお気持ちで、みんなでまた進んでまいりたいと思います。ぜひともよろしく願いいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、横山議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで暫時休憩いたします。再開を2時5分といたします。

〈午後1時53分 休憩〉

〈午後2時05分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、宮島 宏議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。〔14番 宮島 宏君登壇〕

○14番（宮島 宏君）

清新クラブの宮島 宏です。